

2009年度（第13回） 神戸大学ボランティア講座 受講生募集要項

[日程]

- 講義等 …………… 2010年2月21日（日）
体験実習 …………… 2010年2月23日（火）～3月16日（火）の内3～4日間
意見交換会 …………… 2010年3月18日（木）

[会場]

- 講義等 …………… 神戸大学瀧川記念学术交流会館
体験実習 …………… 協力団体の各施設
意見交換会 …………… 神戸大学鶴甲第1キャンパス M棟 202教室

主催：神戸大学

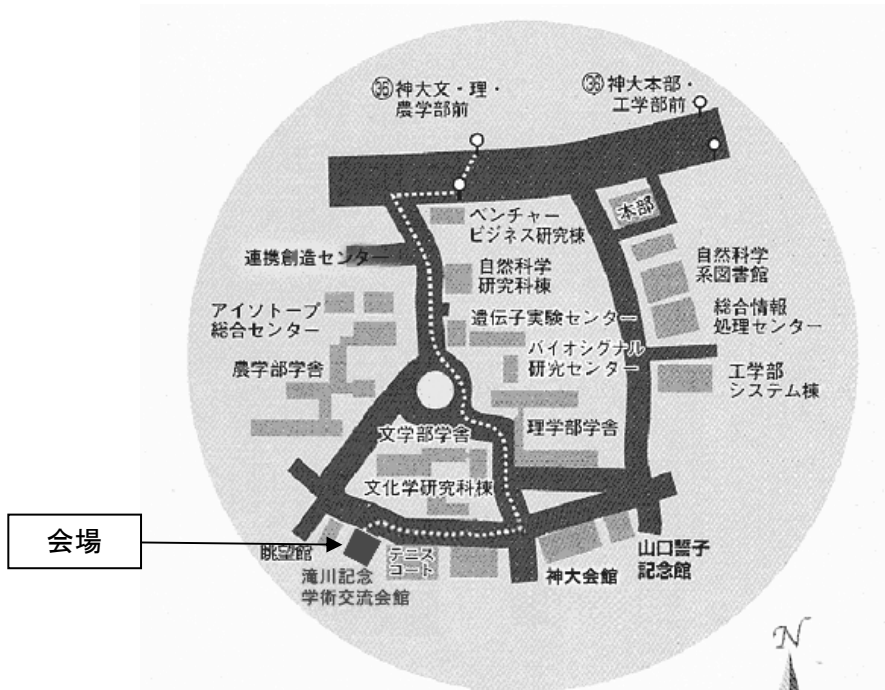
協力：神戸大学学生震災救援隊

神戸大学総合ボランティアセンター

会場案内

■2010年2月21日(日) 講義等会場：瀧川記念学術交流会館

【交通アクセス】阪急六甲・JR六甲道・阪神御影の各駅より、神戸市営バス36系統乗車、「神大文・理・農学部前」バス停にて下車、南に徒歩5分(下地図参照)。



■2010年3月18日(木) 意見交換会会場：鶴甲第1キャンパス M202教室

【交通アクセス】阪急六甲・JR六甲道・阪神御影の各駅より、神戸市営バス16系統乗車、「神大国際文化学部前」バス停にて下車、徒歩5分(下地図参照)。



1. 講座趣旨

本講座は、神戸大学生が課外でのボランティア活動や社会活動などを通じて、キャンパスの中だけでは得られない社会の実際に即した学びを得ることを目的としています。この講座の原点である1995年の阪神・淡路大震災に際しては、多くの神戸大学生が地域での救援ボランティア活動に従事し、被災した人々と真摯に向き合う中で、地域に存在するさまざまな社会的課題に気づかされ、自分の生き方や社会的役割そのものを問われる経験をしました。これを契機に、被災地にある総合大学として、神戸大学はこのような真摯な学びの場を提供し得る学生による課外での社会活動の重要性を認識し、その推進と支援を目的として1997年度より本講座を実施してきました。

なお、本講座は神戸大学学務部と神戸大学都市安全研究センター学生ボランティア支援室の連携のもと、本学学生サークル「学生震災救援隊」「総合ボランティアセンター」の協力を得て企画実施するものです。

2. 本年度テーマ 「自立を問い直す——生き難い社会の中で」

本年は「自立を問い直す——生き難い社会の中で」をテーマに設定して本講座を実施します。「自立」という言葉は、被災した人や「しょうがい」を持った人、野宿生活を強いられている人、「ひきこもり」や「ニート」と呼ばれる若者などに対して、様々な場面で使われます。ですがその意味合いはそれぞれ異なりますし、それを発するのが行政や世論であるのか、当人から出た言葉であるのかによっても、その意味は変わってきます。

阪神・淡路大震災に際して、全国から駆けつけた多くのボランティアが「被災者の自立」を支援するために活動を行ないました。こうしたボランティアによる活動は、被災した人を支え、勇気づけました。しかし一方で、同じ「被災者の自立」という言葉が、避難所の解消や各種支援の打ち切りのためにも使われました。「自立」が住居などの生活基盤が十分に確保されていない段階で、後は自己責任としてやってくださいと被災者を突き放す口実にされたのです。こうしたことがあって、阪神・淡路大震災の際に活動したボランティアは「被災者の自立」とは何だろう、何をすることが、被災した人の「自立」の支援になるのだろうかと悩みました。

当時のボランティアが、災害救援から復興の過程において「被災者の自立」について悩み考えたように、現在も「自立」を考えることは、私たちが様々な問題に直面している人々と関わる上で必要不可欠なのです。

では、一般に「自立した人」とはどのような人を指すのでしょうか。経済的に家族を養う力のある人でしょうか。社会的に認められた人でしょうか。自分のやりたいことを実現できる人でしょうか。「自立」という言葉に対して多くの人が持っている「その人がその人の力で生きていく」という一見前向きなイメージの影には、私たちが多くの人との関わりの

中で生きているという自明のことを薄れさせる落とし穴があります。自分の力だけで生きることを良しとする風潮によって、他人に頼らざるを得ない人が追い込まれ、孤独や孤立を深めかねません。このような「自立観」が今の生き難い社会の中に潜んでいるのではないのでしょうか。

本講座では、「子ども・若者」「移住外国人」「野宿者」「被災者・被災地」「しょうがい者」の5つの分野で出会う人々の「自立」を考え、自分はその人にどう向き合うのかを考えることを目的とします。さらに、この講座を通して、様々な困難を抱えながらも社会の中で生きている人々の多様な「自立のあり方」に目を向けてもらえればと思います。そしてそれは、「自分自身の自立」を見つめ直すきっかけにもなると思います。

3. 概要

- ◎定員 60人（21日の講義のみ一般参加を含め100人）
- ◎対象者 神戸大学学生（講義は一般にも公開、事前申し込みが必要）
- ◎受講料 無料
- ◎申込方法 巻末に綴り込んである「受講申込書」に必要事項を記入し、体験実習分野と日程を選択のうえ、2010年2月10日（水）午後5時までに学務部学生生活課学生相談係、学生ボランティア支援室、各学部・大学院各研究科教務学生担当係のいずれかに提出してください。
- ◎会場 講義は瀧川記念学術交流会館で実施。実習は各受入先で実施。意見交換会は鶴甲第1キャンパスM棟で実施。

◎講座内容

I 総論・入門編としての講義等 2010年2月21日（日）10:00~17:00

- ① 開講式（10:00~10:20）
- ② 講義「自立とは何か」（10:30~12:00）
講師：伊田 広行 氏（立命館大学非常勤講師）
- ③ パネル討論「自立を問い直す——生き難い社会の中で」（13:00~16:00）
司会：藤室 玲治 氏（神戸大学都市安全研究センター学術推進研究員）
パネリスト：各実習現場関係者より1名ずつ（5分野5名）
- ④ 実習ガイダンス（16:15~17:00）
体験実習の分野ごとに分かれ、実習先の紹介と実習先が取り組んでいる問題に関する簡単なガイダンスを行います。

II 体験実習 2010年2月23日(火)～3月16日(火)のうちの3～4日間

各実習先の協力を得て、上記の期間内に体験実習を行います。体験実習は①「子ども・若者」②「移住外国人」③「野宿者」④「被災地・被災者」⑤「しょうがい者」の5分野で、受講者が選択した、いずれかひとつの分野で体験実習を行います。各分野の詳細については6頁以降をご参照下さい。

III 意見交換会 2010年3月18日(木) 10:00～17:00

体験実習などを中心に意見交換及び情報提供などを行い、より深い問題意識などを養うことを目的とし、次の内容により行います。

- ① グループ内討論 (10:00～12:00)
- ② 発表・全体討論 (13:00～16:00)
コメンテーター：各実習現場関係者より1名ずつ(5分野5名)
- ③ 講評 (16:10～16:40)
- ④ 閉講のあいさつと講座修了認定証配布 (16:40～17:00)

◎ボランティア保険の加入について

体験実習に参加する場合は、ボランティア保険に加入します。未加入の方は2月21日(日)の本講座受付で加入手続き(加入料：50円)を行ってください。

◎交通費・宿泊費について

宿泊のない、①「子ども・若者」③「野宿者」⑤「しょうがい者」分野では、実習先に行くための交通費(定期券等が重複していない区間のみ)は一人当たり1,000円を限度に支給されます。実習時に請求書に記入して実習終了後、実習グループ代表に提出し、3月18日(木)の意見交換会の際に受け取ることになります。

2泊3日で実施する②「移住外国人」④「被災地・被災者」分野については、大学の借り上げたバスで移動するため、交通費は必要ありません。宿泊費も不要です(ただし、現地での食費は自己負担)。

◎レポートの提出について

受講者は、初日の講義と現場実習に関するレポート2本を3月17日(水)までに提出して頂きます。提出されたレポートは、「神戸大学学生ボランティア講座報告書」に原則として原文のまま掲載し、印刷・公表します。それにより受講者、協力者及び協力団体へのフィードバックと、将来の大学活動での活用を図ります。

◎修了証の交付について

受講状況などの所定の要件を満たし、レポートを提出したのものには、修了証を交付します(単位の認定は行いません)。

問い合わせ先：

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1 神戸大学学務部学生生活課学生相談係(藤原)
TEL：078-803-5227 FAX：078-803-5209 E-mail: stdnt-gkmsodan@office.kobe-u.ac.jp